

2024. 4. 10. (WED).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『R6のスタート』

8日に始業式、9日には入学式を行って令和6年度が正式にスタートしました。手前味噌で恐縮ですが、教職員の協力と生徒の頑張りのお蔭でどちらの式もとてもよかったと思っています。始業式と入学式の様子をここに記録しておきます。

これら2つの式で生徒に提示したのが今年度のキャッチフレーズです。これについては、年度初めの職員会議で既に教職員とは共有しています。

“Ask what you can do for the KOKA!”で、「あなたが光華のためにできることを考えましょう。」と訳しました。

入学式では、中学1年生が対象になっているため理解が難しいだろうと思って“For the KOKA!”とだけ示しました。

このフレーズは第35代アメリカ合衆国大統領のジョン・F・ケネディーの就任演説から引用しました。大学受験を目指して勉強していたときにその文章に触れ、17～18歳の私は感動と衝撃を受けたことを覚えています。該当の部分を以下に示します。

“My fellow Americans, ask not what your country can do for you, ask what you can do for your country. My fellow citizens of the world, ask not what America will do for you, but what together we can do for the freedom of man.”日本語訳はこうです。「我が同胞たるアメリカ国民よ。この国があなたに何をしてくれるのかではなく、あなたがこの国のために何ができるのかを問うてほしい。我が同胞たる世界の市民たちよ。アメリカがあなたのために何をしてくれるかではなく、共に人類の自由のために何ができるかを問おうではないか。」

2・3年生が対象の始業式では次のことも強調しました。目標を設定しそれに向けて努力をしてほしいと言った後です。目標が達成できなかったときに、その原因を厳しく自分へ向けてほしいということです。人はうまくいかなかったときや上手くいかないときにその原因を周りの人や環境に求めがちです。それではダメだと言いました。「何が悪かったのか!？」その原因を自分の中に求め、謙虚に反省して次に生かせる人が伸びていくのだと強く訴えもしました。

始業式では上の写真の通り、私の話を聞いた生徒たちの多くが自分の今年度の目標を発表しに登壇してきました。仮にうまくいなくても構いません。それに向かって精一杯の努力をすれば、それは必ずその人のそして京都光華のためになるのだと思うのです。さあ、焦らず慌てず、じっくりと定めた目標に向かって動き出しましょう。



2024. 4. 5. (FRI).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ~ For the students ~

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『今年はどうな年に…』

今年は3月の気温が低く、おかげで校門の桜は今が見頃となっています。来週早々に始業式と入学式とを迎えることになるので、どうやら今年は桜の花が満開の新年度始まりとなりそうです。

そのような中、四月になって以来毎日、全教職員は新年度の準備を進めています。初めて学級担任をする教員もいれば、まったく新しい仕事に携わることになる者もいて、教職員の方も“ドキドキ”と“ワクワク”の両方の気持ちをもって行動しているはずです。

さて、私かというと、何も分からず赴任した昨年度とはかなり気持ちが異なります。

久しぶりに学校の最前線に戻ってきた昨年度は、断然“ワクワク”感が“ドキドキ”感に勝っていました。しかし、今年度の気持ちはすこし違っているのです。一年間を過ごしてみて、本校の課題を「我がこと」として感じているからです。もちろん、課題のない社会などありません。それを一つひとつ解決しながら進んでいくのが社会であり組織です。もちろん学校もそうです。一人の生徒が背負わされている課題、本校生徒全体に共通する課題、また今学校が直面している課題もあって、どれもこれも、とても簡単に解決できるものではなさそうです。新たな年度を迎えるにあたって、一つひとつに丁寧に向き合い、解決していこうと決意を新たにしているところです。

こういったことはこれまでも経験したことがありました。その際、その状況をどのようにして抜け出してきたかを思い返してみるといつも同じ解決方法をとってきたことに気づきます。ここは学校です。生徒がいます。ですから生徒の抱える課題の解決が最優先です。生徒一人ひとりが本校の課題を作っています。だから目の前の一人の生徒の課題解決に目を向け、教職員が力を結集して取り組むのです。そうすると、いつの間にか不思議と他の課題までが次々と解決するという経験を幾度も経験しました。

今回のエッセイのテーマを『今年はどうな年になるのか』としようと思いましたが考え直しました。それでは先月の修了式に全校生徒と全教職員とで確認した“上向き、前向きな考え方・生き方”に反するからです。そうすると、テーマを次のように改めるべきであると気づきました。『今年はどうな年にしようか』です。

昨年度赴任した時にどんな時も「この子らと共に」過ごそうと決めました。新しく入学してくる123人の生徒を含め、新しい京都光華中学校高等学校がスタートします。ほとんどの生徒たちは新年度に対して“不安”よりも圧倒的に“期待”をしているはずで、多くの学校の中から本校を選んで進学して来てくれた生徒たちに丁寧に向き合い、その子たちの個性と能力を大切に、それを十分に引き出し伸ばします。

目の前の生徒を徹底的に大切にすること、それが本校の信条です。そうして、生徒のキラキラと輝く姿を見ることが私たちの喜びです。令和6年度も頑張りましょう。



※カナダの高校生との交流会より